

【10月号:バナナの国で平泳ぎ】

10月末から約3週間日本遠征を行いました。今月号と来月号はその話を中心にレポートしたいと思います！

【日本遠征：心配は尽きない】

いきなり不安なタイトルです(笑)。ここでは海外旅行に必要な手続きについて少しでも知ってもらえたらと思います。今回はその一つ、アメリカ通過ビザについて。

選手がアメリカに入国する際にこのビザが必要でした。事前にくつもの書類を用意して、首都に行ったり、グアヤキルに行ったり、それはもう大変でした。国をまたぐためにはそれなりの安全保証や確認が必要なのです。細心の注意を払って申請したアメリカ通過ビザですが、めでたく出発1週間ほど前に郵送で届きました。

パスポートを開いてびっくり。通過ビザを申請したはずが、他の種類のビザで許可が下りていました。出発まで時間があまりなかったもので、とにかく焦りました。パスポートが届いたのが金曜日で、次の月曜日にアメリカ領事館に確認を入れると許可されたビザは幸い通過ビザの上位にあたるものだったので事なきを得ました・・・。心臓に悪いです。聞くところによると、職業が勝手にサッカー選手になっていたり、既婚が独身になっていたり、プロフィールがどこかで変わってしまうことが少なくないようです。こんなことが日常茶飯事なんて信じられませんよね。

【日本遠征：いよいよ出発】



ビザのこともあり出発1週間前は精神的に大変でした。この時期に実は同僚が1人辞職しました。彼は配属先の賃金に不満があり、長い間改善を求めています。しかし、両者の間で話が上手くまとまらなかったようでした。元水泳選手で国際大会の経験もある同僚だったので配属先には大きな痛手です。そんなハプニングもありましたが無事に出国を果たしました。次はアメリカ入国と出国です。

エクアドル出国の時もそうでしたが、アメリカの入国審査でも旅行の目的を尋ねられ、日本遠征と答えると「がんばってね!」と応援されました。「選手にとってはわすれられない思い出になるだろう」とか「私も若い頃にそんな経験がしたかったわ」など、意外にもすごく好印象な対応をしてもらいました。ビザのことで心配だったので疲れていたのか、アメリカから日本への飛行機の中は久しぶりの快眠でした。さて、目が覚めたらいよいよ日本です。

【日本遠征：競泳ワールドカップ2014 東京】

日本到着の翌日からワールドカップが2日間行われました。同期の隊員がエクアドルで指導する選手も参加するというので、予選が行われる午前中から観戦しました。ワールドカップなので当然オリンピック級の選手が大勢出場するこの大会、参加選手の一挙手一投足が勉強になると思い遠征の序盤に組み込みました。

観戦中選手には常にノートを持たせ、メモをする習慣をつけさせました。準備体操、ウォーミングアップ、クーリングダウン、待ち時間やレース前の振る舞い方、応援の仕方など、数を挙げればキリがないほど良い勉強が出来ました。特にウォーミングアップとクーリングダウンは普段テレビには映らないので僕にとっても新鮮でした。

初めて見るプロの生泳ぎに選手は目が釘付けでした。目の前で優勝した憧れの選手、1人で何種目にも出場しメダルを量産する怪物選手、自分と変わらない年齢の選手が世界を相手に闘う姿、試合観戦だけで遠征を終えてもお釣りがもらえそうなくらい充実した時間を過ごすことが出来ました。

